



平成30年12月17日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

川西町議会広報広聴常任委員会
委員長 佐々木 賢一

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

平成30年第3回川西町議会定例会において許可された所管事務調査（先進地視察調査）について、別紙のとおり報告します。

平成30年度 広報広聴常任委員会研修視察報告書

I 研修視察期日 平成30年10月9日(火)～10日(水)

II 研修先 1 平成30年度町村議会広報研修会
2 鳥取県大山町議会

III 研修参加者

委員長 佐々木賢一 副委員長 伊藤寿郎
委員 橋本欣一 神村健二 鈴木幸廣 伊藤進
議会事務局 藤崎良子

IV 研修目的

- 1 全国町村議会広報クリニック研修
- 2 議会広報の企画・編集方法先進地視察調査

V 研修視察報告

1 全国町村議会議長会広報クリニック

当日はシェンバッハ・サボーを会場に、北海道・東北・関東地区より94町村議会が参加、全国広報コンクール審査委員・グラフィックデザイナーの長岡光弘氏を講師に迎え「最優秀賞及び優秀賞(総合2位)作に見る光彩を放つ編集力を」を演題としクリニックを受けた。評価ポイントとして

◎ 最優秀賞(埼玉県寄居町議会発行:お元気ですか寄居議会です No.84)

- ① 町と住民を思う議員の主張が見える。
- ② 議会の行動力が光る編集
- ③ 町を思う調査研究が可視化されている。
- ④ テーマ別に分類した質問が、議員の問題意識が伝わる

◎ 優秀賞(山形県川西町議会発行:かわにし議会だより 第129号)

- ① 議会の意欲的な行動が住民に伝わる
- ② 予算の審査姿勢が伝わる編集
- ③ 進化する議会の見える化が施されている
- ④ 情報を整理した丁寧な編集

以上の取り上げられた広報誌に当議会が選ばれ、「議会の担う役割を訴求した編集力が巧みな議会広報紙」として全国に紹介された事は身に余る光栄である。

2 鳥取県大山町議会

① 視察地の概要

大山町は、平成17年3町より合併した人口1万6400人の町、鳥取県の西部に位置し、東は琴浦町、西及び南は米子市、伯耆町に接し、北は日本海に面している。中国山脈の主峰大山の裾野にくさび形に接し面積189.80平方キロ。南部の中山間地と北部の平坦地では若干の差はあるものの温暖な気候。主な産業は観光と農業。移住者の定着率が高く、特に20～30代の若い移住が多い。

② 視察対応者

大山町 町長	竹口 大紀
大山町議会副議長	吉原 美知恵
同 広報常任委員会委員長	大原 広巳
同 広報常任委員会副委員長	森本 貴之
同 広報常任委員会 委員	野口 俊明
同 広報常任委員会 委員	近藤 大介
同 広報常任委員会 委員	米本 隆記
同 広報常任委員会 委員	門脇 輝明
大山町議会事務局 局長	持田 隆昌
大山町議会 事務局 主幹	生田 貴史

② 視察内容

(1) 議会広報の編集方針・編集基準について

- I. 読んでみたくなる紙面にする
 - ・インパクトのある表紙
 - ・住民の登場
 - ・興味をひく見出し
- II. 住民目線で読みやすい内容にする
 - ・簡潔な文章・余白
 - ・中学生でも理解できる
 - ・高齢者が読み疲れない
- III. 議会だよりにしかない情報を載せる
 - ・行政の広報と違う情報
 - ・議会活動の洗い出し
 - ・ほかの議会だよりの模倣はしない
- IV. 会議録や活動報告ではなく情報誌にする

- ・発行の迅速化
 - ・議会ウェブサイトへの誘導
- (2) 「議会だよりだいせん」の企画・編集方法について
- I. 一般質問
 - ・質問見出しは簡潔にし記号・囲み線・図形・装飾・イラストは使用しない
 - ・紙面に余白をもたせる
 - II. 写真
 - ・表紙は季節感のある行事、人物を登場させる
 - ・裏表紙は季節感のある風景
 - ※ 保育所・学校での写真を使用するときは承諾を原則とする
 - III. 編集の留意点
 - ・言葉づかい表記に留意
 - ・むずかしい言葉には解説やルビを振る
 - ・写真や空白を用いて、読みやすい構成にする

V 総括

大山町議会だよりは全国コンクール上位入賞の常連であり、強豪と評されている。大山町議会広報常任委員会における議会だより発行の目的は、議会への関心を高めること、住民が議会をチェックする材料にすることだと考えている。まずは読んだことがない住民に興味をもってもらおう。そして毎回読んでいる住民に愛読してもらおう。この2つを徹底的に考え、表紙や見出し・レイアウト・写真などさまざまな工夫をしている。

当議会も検証を怠らず、時代の潮流や住民ニーズを敏感にとらえ、愛読し続けてもらえる議会だよりであるよう努力しなくてはならない。